

広報 南さんりく

10

MINAMISANRIKU PUBLIC INFORMATION

No.152 2018. 10. 1

豊饒の海 志津川湾が世界へ

特集 「志津川湾」が ラムサール条約 湿地へ

10月21日からドバイ（アラブ首長国連邦）でラムサール条約締約国会議が開催されます。この国際会議で、志津川湾がラムサール条約湿地に登録される見込みです。ここでいう「志津川湾」は、歌津・志津川・戸倉の海を含む南三陸町全体の海です。ラムサール条約湿地に登録されると、世界的に重要な自然環境であると認められることとなります。今回は、世界が注目する志津川湾の自然とラムサール条約について紹介します。



海藻の森と魚の群れ



南三陸町「志津川湾」



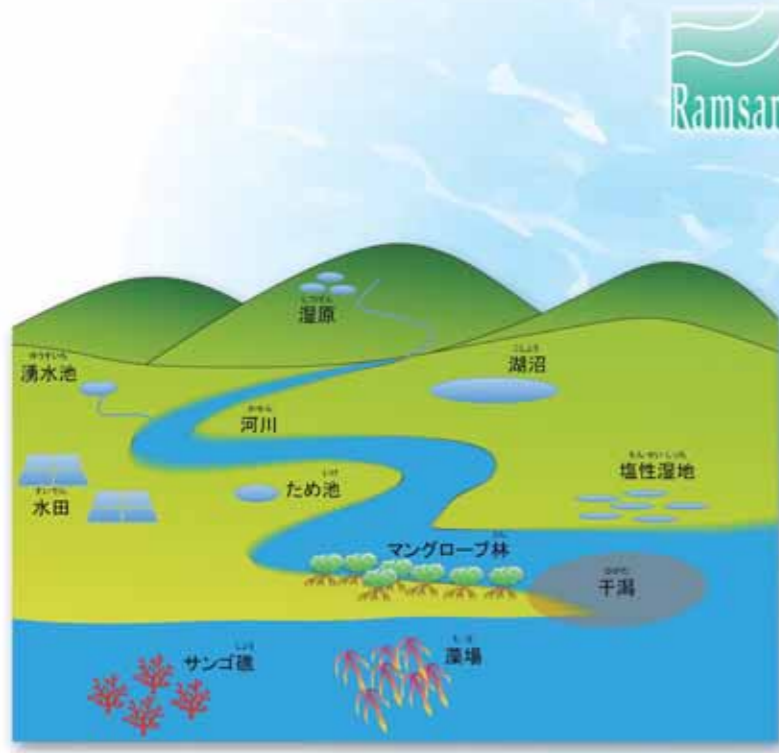
ラムサール条約湿地登録予定エリア

ラムサール条約ってなに？



ラムサール条約の正式名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。湿地は、水鳥を含めた多くの生きものすみかとして重要です。また、農業や漁業を行う場所として、私たちの暮らしを支えています。ここでいう「湿地」は、湿原や湖沼、水田のほか、干潟や海藻の森（藻場）、サンゴ礁などの海域も含まれます。

はるか昔から、人は川や海辺で自然からの恵みを受け取りながら暮らしてきました。しかし、文明の発達にともない水辺の自然は次々と埋め立てられ、工場や家庭からの排水により水が汚されたため、多くの水辺で生きものが暮らせなくなりました。このままでは未来の子どもたちが自然の恵みを得ることができなくなってしまいます。そのため、湿地を守り、私たちが自然の恵みをいつまでも活用できるように、世界の国々がイランの都市「ラムサール」で話し合いを行いました。そこで交わされた国際的な約束が、ラムサール条約なのです。その目標は、以下の3つを柱としています。



さまざまな湿地

志津川湾の概要

志津川湾は宮城県北東部沿岸の、寒流と暖流が混ざり合う独特な海洋環境の中にあります。そのため、冷たい海の生きものと暖かい海の生きもの両方が見られる生物多様性の高い海です。南三陸町を取り囲む山々の連なり（分水嶺）が町境となっており、町に降った雨は川を伝い、山や人々が暮らす里からの栄養を取り込んで志津川湾に注ぎ込みます。



志津川湾に影響を与える3つの海流

■希少な水鳥の越冬地

志津川湾には毎年オジロワシやオオワシなどの貴重な水鳥が冬を越しにやってきます。その中でも、遠く北方のシベリアから志津川湾へやってくるコクガンは、国の天然記念物と絶滅危惧種（宮城県・環境省：絶滅危惧Ⅱ類）に指定されている希少な水鳥です。コクガンは世界に8,000羽ほどしか生息していないといわれていますが、そのうちの100羽から200羽が毎年志津川湾に冬を越しにやってきます。志津川湾は、波が穏やかな環境や、餌となる海藻や海草を育む藻場が十分にあることなど、コクガンたちが安心して冬を越すことができる場所なのです。



オジロワシ ※2



コクガン ※2



オオワシ ※2



これからの活動

南三陸町では、「森里海人いのちめぐるまち 南三陸」という将来像を掲げ、自然と共生するまちづくりを進めています。ラムサール条約湿地に登録されることは「ゴール」ではなく「スタート」です。条約の目標である湿地の保全・再生、賢明な利用（ワイズユース）、交流・学習は、南三陸町のまちづくりを後押しするものとなるでしょう。私たちの生活を豊かにする湿地の恵みを未来の世代に残していくために、私たちに何ができるのか、地域全体で考え、行動していくことが大切です。

来月号では、ラムサール条約湿地の登録に向けた歩みや平成31年2月に開催予定のイベントなどについて紹介します。どうぞご期待ください。



8月に開催した幼稚園児対象の磯の観察会の様子 ※3

画像提供 ※1：青木優和 ※2：南三陸ネイチャーセンター友の会 ※3：大學章浩 イラスト：浜口とり

9月現在、ラムサール条約湿地は世界に2,326カ所、日本には50カ所あります。そのうち東北には6カ所、宮城県内には伊豆沼・内沼、^{かぶくりぬま}蕪栗沼・^{けしよぬま}周辺水田、化女沼の3カ所が登録されています。志津川湾がラムサール条約湿地に登録されると、東北では初の海域でのラムサール条約湿地となります。また、海藻藻場（後述）の貴重さが認められての登録は、国内初となります。



志津川湾の自然環境

■海の中に広がる海藻の森と海草の草原

暖流と寒流の両方の影響をバランスよく受ける志津川湾では、冷たい海に住む海藻と暖かい海に住む海藻の両方が見られ、現在までに200種以上の海藻が確認されています。また、アマモなどの海草の仲間も確認されています。海草は、陸上の種子植物と同じ仲間、海中で花を咲かせ実をつけます。志津川湾には、多種多様な海藻や海草が作り出す森や草原（藻場）があります。その中でも、冷たい海を代表するコンブ類「マコンブ」と暖かい海を代表するコンブ類「アラメ」の藻場が同じ場所で見られるのは、世界的にも珍しいことなのです。

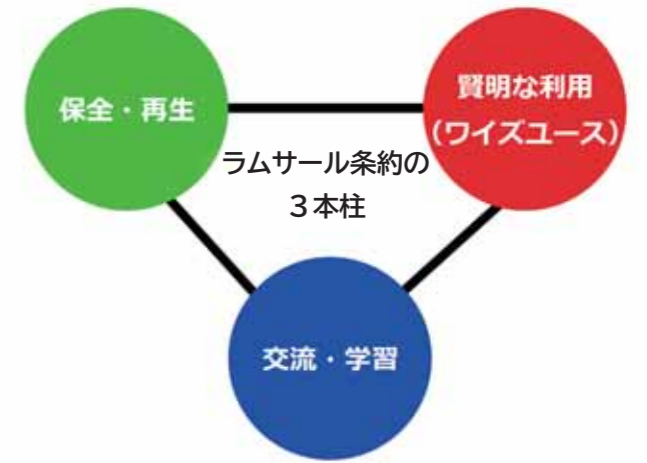
藻場は、海の生きものたちにとって、^{えさ}餌を食べる場所として、隠れ家として、子育てを行うゆりかごとして重要な役割を果たします。また、藻場をつくる海藻自体も、ウニやアワビの大切な餌になります。藻場は生態系を支える縁の下の力持ちであるとともに、私たち人間にとっても豊かな恵みを与えてくれる大切な存在です。



マコンブ

アラメ ※1

タチアマモ



目標1

保全・再生

私たちの暮らしを支える重要な湿地の生態系を保全・再生すること。

目標2

賢明な利用(ワイズユース)

湿地の生態系を守りながら、湿地の恵みを大切にかつ賢く利用すること。

目標3

交流・学習

湿地を通じた学習・交流活動、広報・普及活動を行うこと。